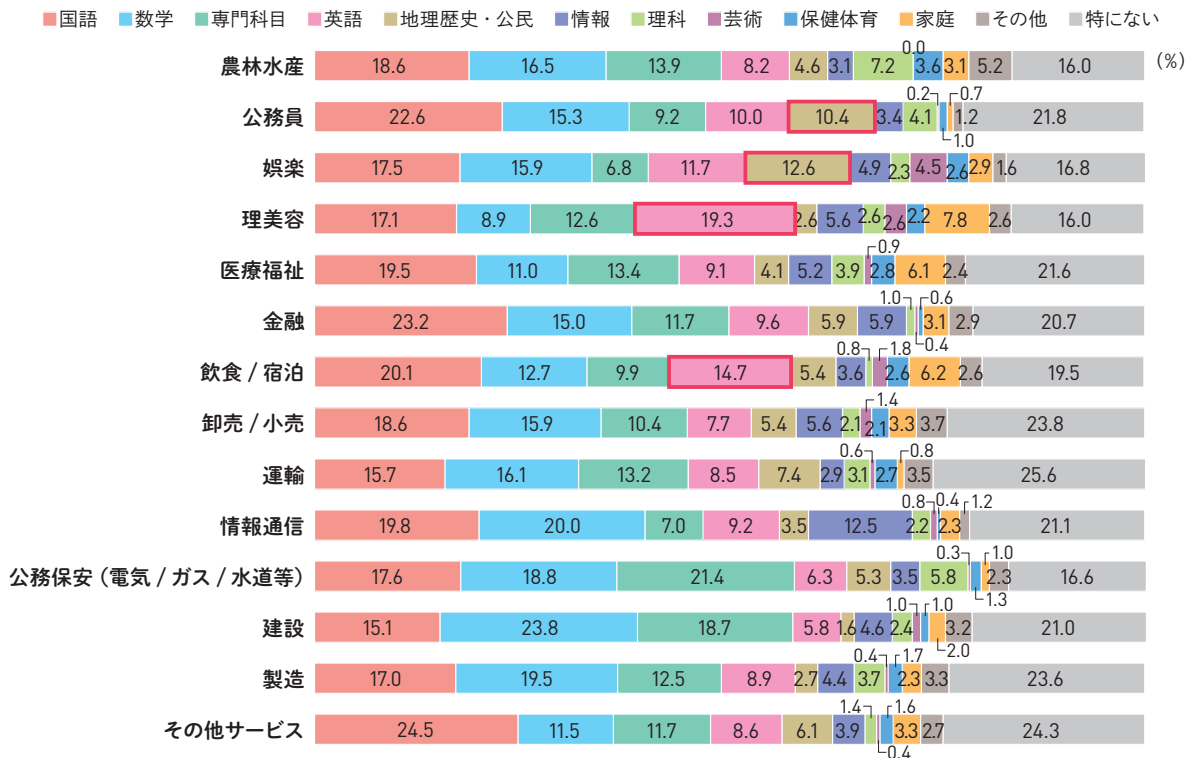


高校での学びや経験は、 社会に出てからどう役立つのか

ピックアップデータ ベネッセコーポレーション『就労力(*1) 調査』(*2)

データ 高校時代に学んだ教科のうち、社会に出てから最も役立つと思える教科 (業種別)



注) 最もあてはまるもの1つを選択。

高校生のアドバイスの一つとして、「失敗を恐れてやらないのではなく、失敗する可能性があっても積極的に挑戦してほしい。経験して初めて分かることが多々ある。いろいろな経験をするとともに、困ったことがあれば周囲に相談して解決することを実践してほしい」(三重県/製造/管理職)など、高校生を応援する声が多数寄せられた。

高校での学びや経験と、社会とのつながりを伝えることで、生徒が意図を持って毎日過ごし、それがさらなる成長につながるのではないだろうか。

具体的には、海外からのお客様が来店した時、話された英語がある程度分かり、会話ができた。お客様も安心してくださり、高校時代に英語を勉強しておいてよかったと思っただ」(東京都/理美容)、「営業活動における話題の1つとして、歴史を勉強しておいたことは役に立った。また、出張などで地方に行く際、地理の知識が交通経路を考えるのに役立っている」(栃木県/娯楽)といった回答があった。

上記のデータは、高校時代に学んだ教科のうち、社会に出てから最も役立つと思える教科を尋ねた結果だ。一般的に「国語」「数学」「専門科目」の割合が高いが、業種別の特徴として、「理美容」では「地理歴史・公民」の割合が、他業種と比べて高かった。

社会と学校とのつながりを可視化し、生徒の学びの意欲の向上を支援しようと、ベネッセコーポレーションは、2021年10月、広く全国の企業の協力を得て、社会人を対象に『就労力』調査を実施した。

*1 「就労力」は、「社会に出た後、自らリニューアルと軌道修正を繰り返しながら、ステップアップを目指す力」と定義。

*2 【調査方法】ウェブ、【調査期間】2021年10月、【有効回答数】6,103件。